



学校だより

令和3年 6月30日
練馬区立北町西小学校
校長 小松田 早苗
第699号

問うて学ぶ

副校長 木村 順子

「問うて学ぶこと」は学問の原型です。「なぜ」「どうして」という問いを立て、その問題を解決していくことは、思考を組み立てていく力を育てます。「なぜ」「どうして」という問いを発し、その問いを明らかにしようとしたときに、また、自分の関心や経験と照らし合わせようとしたときに、積極的に問題を解決しようとする力が働きます。説得力のある論が生まれます。

批判的な精神というものも、論理的な考察には必要です。「人の意見に物申すなんて、なんだか失礼じゃない。なにも言わなければ波風もたたないし、黙っていても…」そんなふうを考える風潮も日本にはあるかもしれません。

しかし、問を立て、多面的な方面から思考することや、論理的に批判することは、建設的に検討するために必要な力です。

さて、ここで、演習を試みましょう。題目は「校帽は格好悪いから被らなくてもよいのではないか。」です。

多くの小学校では、校帽を着用しています。本校と同じように「黄色い校帽」を被っている学校が多いのではないのでしょうか。私も小学校に通っている時は、黄色の校帽を被って登校していました。なぜ校帽が被られるようになったのでしょうか。一説によると、日本では海外とは異なり保護者が学校への送り迎えを行いません。校帽を被ることで、道行く人や自動車に小学生の存在を知らせ、安全な登校を目指したということです。しかし、校帽を被らない児童を見かけることが多々あります。

ご家庭でもぜひ話題にしていいただければと思います。「格好悪いから被らなくてもよい」という意見にどのような反論ができるのでしょうか。

- ・決められたことは守るべき。
- ・校帽に学校の校章があるので、責任をもって通学できる。
- ・高学年として、下学年に示しがつかない。
- ・先生に叱られるから、被らないといけない。

別の角度からの考えもあります。

- ・校帽はどう見てもなんだか格好悪い。どうにかならないのか。

では、どうにかする方法はあるのでしょうか。

- ・校帽を格好いいものにするのはどうか。だれもが被りたくなるようなデザインに変えるべきではないのか。
- ・誰に言えばいいのか。どのように動くのか。
- ・新しい校帽はどこで製作すればいいのか。

中学校であれば、ぜひ、生徒会に立候補して欲しいところです。

この続きはぜひご家庭で。

多面的な角度から物事を見つめ、主体的に学ぶ力を身に付ける訓練は、いつでもどこでもできます。

今自分が行っている行動は正しいのか。間違っているのか。改善の余地はないのか。「なぜ」なのか。「どうして」なのか。身に付けたい思考の習慣です。



体育発表会について

前日は雨が降り、天候が心配されましたが、6月5日（土）に体育発表会を開催しました。応援したいのに、声を出してはいけない。兄弟学年の表現以外見ることもできない。例年と比べ、様々な制約がある中での開催になりましたが、北西の子供たちは今できることに全力で取り組み、そして全力で楽しんでいました。

「つなげよう 北西の心」というスローガンにあるように、このような状況下でも心を一つにして体育発表会を成功させようとして取り組んできました。3年生の表現は、太鼓を使ったダンスです。4年生は、縄跳びを使いました。1年生にとっては、初めての体育的行事です。始めの言葉の代表児童はとても立派でした。2年生は、バンダナを使い恰好よく踊りました。5年生のソーラン節は、オリジナル曲を用いた躍動感のある踊りを見せてくれました。6年生は、扇子を用いたダンスと、集団行動で、最高学年として素晴らしい演技を見せてくれました。どの学年もめあてをもって取り組んでいました。短距離走でも、力いっぱい走りゴールを目指していました。緊急事態宣言の延長を受け、保護者の方の観覧はできませんでしたが、子供たちが体育発表会に向けて真剣に取り組んでいる姿は伝わったことと思います。

大きな行事が一つ終わり夏休みを迎えようとしています。体育発表会のスローガン「つなげよう 北西の心」を胸に大きく成長できるよう、教員一同取り組んでまいります。



PHOTO



PHOTO

体力テスト

6月14日、15日に、東京都統一体力テストを実施しました。このテストでは、子供たち自身が自分の体力や運動能力に関心を持ち、生活・運動習慣等の実態を把握・分析することで、より健康な生活を送ることができるようにすることをねらいとしています。

今年度は、感染症対策のため、密を避けることができる握力、長座体前屈、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げの5種目のみの実施となりました。

どの学年も記録を伸ばそうとポイントを押さえながら取り組み、全力で行いました。高学年は体育委員会が主となって計測を行い、委員の子供たちは、責任を果たせたとすがすがしい気持ちを感じていたようです。

2学期以降に結果を返却いたします。ご家庭でも結果をご覧になって、お子様との話題にしていただければと思います。

本校の研究について

「互いを認め合い、よりよい生活を築こうとする児童の育成」を目指して、今年度も、特別活動の校内研究に取り組みます。「安心して参加できる話し合い活動の中で、他者の思いをくみ取り、合意形成することを十分に経験することで、互いを認め合い、よりよい生活を築こうとする児童が育成できる。」と研究仮説を設定し、話し合い活動の研究を進めてまいります。

昨年度はコロナウイルス対策により、話し合い活動の時間をとることが難しく、十分に授業を行うことができませんでした。本年度は、感染対策を行い、児童の変化を看取ることができるような年としていきたいと思っております。保護者の皆様にもご協力いただくことが多々あると思っておりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

診断テストについて

7月15日(水)に4、5、6年生は1学期の診断テストを行います。これは、これまでの学習の内容を振り返り、自信の学習状況を確認することで、家庭学習における復習を行うきっかけとすることをねらいとして始まった取り組みです。内容としては、「入学してからテスト日までに学習した主要4教科の全内容がテスト範囲」「一つ4点×25問のテストを、1科目15～20分程で実施する」「採点は自己採点をする」「目標得点と結果の得点を比較して今後の家庭学習のしかたを児童と保護者が相談する」というものです。

例えば、4年生の社会で学習する「都道府県の名前と位置」は、その学年での学習が終わった後、復習したり身に付けた知識を使ったりしなければ、ほどなく忘れてしまいます。学習したことを使うことで知識は定着していきます。学習内容の復習は家庭学習が基本です。毎日の学習には「今日習ったこと」と「過去に習ったこと」という2種類の復習が必要です。「自分に何が必要か」を考えて実行する経験が、将来的にお子さんの糧になります。言われた宿題だけをしても本当の学力はつきません。また、自己採点をする力は、将来的には自分の言動や仕事ぶりを正確に評価できるかどうかにかかわっていきます。自分の力を振り返ることで課題を見だし、目標を決めて自主的、計画的に学習を進めることができる力を身に付けていけるよう指導していきます。

特別支援教育について

私は今でこそことばの教室の担当者ですが、かつては通常学級の担任でした。その頃の話です。

3年生のクラスで、一時期、あるうわさが流行ったことがありました。それは、

「マークの違う牛乳瓶はうまいらしい！」

そんなこんなで、新しい牛乳瓶を手に入れるために、クラス中が大騒ぎ。

ところがこのものぐさ先生は、ニタニタ笑って見ているだけでした。

とうとうある日、ひとりの子が言い出しました。

「ねえ、こんなじゃいつまでたっても決まらないよ！」

私はさっと緊張しました。(さあ、同調する子が出てくるか、それにかかっているぞ)。

他の子も言い出しました。

「そうだよ。順番決めて配ることにしたら？」

以来、班ごとに順番を決めて牛乳瓶は配られることになりました。

「牛乳の味なんて変わらないんだから、普段通りに配りなさい。」

と私が一言、言ったら、こんな大騒ぎはなかったでしょう。でも、そうしたら子ども達が自ら解決策を考え、自ら事態を収拾することもなかったでしょう。

皆さんは、子どもが初めて立って歩いたときどうしてましたか。きっと励ますことはあっても決して手出しはしなかったと思うのです。一人で立ち、一步を踏み出すまでじっと待ち続けたのではなかったですか。

「待つ」ということ。

それは子育てにおける素敵なスパイスになるのです。

